

日本、アジアのシマアオジ保全

〒103-0014
東京都中央区日本橋蛸殻町1-13-1
ユニゾ蛸殻町北島ビル1階
電話:03-6206-2941
<http://tokyo.birdlife.org/>



ひろげる助成

1年目

調査研究



ロシア・ドヴェリのワークショップ参加者

シマアオジ標識調査
(捕獲個体数) **18羽**

ロシア・シマアオジWS
参加地域 **11地域**

今年度計画の達成度 **95%**

活動の全体目標に対する
達成度 **30%**

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

繁殖地の野外調査は現地に長期間泊まり込みのため、調査準備を入念に行った。調査では蚊の対応に苦慮した。

■ 工夫した点

標識は金属リングの他、地域別に色分けしたカラーリングを装着し、越冬地や中継地でもどの繁殖地から来た個体か識別が可能。



課題

シマアオジはユーラシア大陸で最も多い鳥類の一つであったが、現在では絶滅の危機に瀕している。シマアオジの国際保全計画を立案すると共に、早急な保全対策を実施する。

目標

シマアオジの国際保全計画の立案、北海道及びサハリン個体群の安定・回復(に必要な調査)、越冬地の状況把握、シマアオジなど渡り性陸鳥類の密猟対策・保全への理解促進。

活動内容と成果

●ロシア鳥学会議でワークショップ、円卓会議を開催:
ヨーロッパロシアから極東ロシアまで11地域以上から約70名が参加。繁殖地での生息状況を広く網羅し、保全に必要な対策を検討した。

- 北海道と共通性の高いサハリン個体群の調査を実施: サハリンの繁殖地域をほぼ把握し、18個体のシマアオジに標識放鳥した。
- 中国南部において、シマアオジを含むホオジロ類の生息調査、密猟等の現況調査を実施した。シマアオジのIUCNレッドリスト・絶滅危惧IA類指定を受け、イメージビデオや教材案・リーフレットを作成した。



サハリン北部での標識調査にて

今後の展望

来年度は国際鳥類学会で意見を募り、保全計画案の検討を進めるほか、サハリンではジオロケーターを用いて渡りの調査を開始する。サハリン以外の繁殖地、越冬地とも連携し、シマアオジ個体群の回復を目指したい。